令和７年度「授業改善推進プラン」（全体計画）

板橋区立　　板橋第七小　　学校

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「自分の考えを条件に合うように書くこと」や「登場人物の心情を読み取ること」の平均正答率がその他の問題と比較すると低いことが分かった。
また算数では、基本の部分は理解できているが、問われ方が変わると正しく読み取れない様子が見られた。
○学習に意欲的に取り組む児童は多いが、問題解決に向けて学習の見通しをもって論理的に考えることや自分の意見をもてる児童が少ない。また、考えたことを発表する等の表現する力は十分に育っていない。
○思考を要する課題や繰り返し取り組む学習課題に根気よく取り組むことに苦手意識のある児童がいる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※自己調整学習の定着に向けて

○児童が見通しをもち、主体的に課題解決をする力、表現する力を身に付けさせるため、自ら問いを見いだすことができる教材や学習活動の工夫をすること。また、本時のめあてが達成できたかを児童自身が振り返る時間の設定、そして視写や共書きを通して、言葉の意味を考えながら書くことに慣れさせ、ノート活用を重視した工夫が必要である。
○児童一人ひとりが自分の考えを表現し、友達と意見交流できるような場面を設定すること、そして対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげる指導を工夫する必要がある。またその基盤となる言語能力の育成が課題である。
○「読み解く力」を土台とした自ら、選択・決定・調整できる自己調整学習を実践していくことが必要である。
○タブレット端末を含めたICT機器を効果的に活用した授業展開を行っていく必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○学びのゴールとなる具体的な「めあて」や「振り返り」を重視した板橋区授業スタンダードに基づいた授業を行い、基礎的・基本的な学力の定着の育成を図る。
○自己で選択・決定・調整ができる授業を各学年実践し、自己調整できる力を養っていく。
○読み解く力を育成するため、６つの基礎的読解力（係り受け解析・照応解決・同義分判定・推論・イメージ同定・具体例同定）を意識した授業の日常化を図る。
○児童が習得した知識を活用して考える力や、自分の思い・考えを表現し伝え合う力を育むために、体験的な学習や問題解決的な学習を重視する。児童が主体的・探究的に学習に取り組めるような授業改革を進め、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
○児童一人ひとりが自分の考えを表現し、ペアやグループの少人数交流、全体で相互に意見交流しながらよりよい考えを作り出していく協働学習を推進する。課題選択や学習の個性化を図り、個別最適な学びを充実させる。また、探究的な学習や体験活動を通じて、子ども同士、あるいは地域の方々と連携した協働的な学びの充実を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点１ 板橋区授業スタンダードの徹底	視点２ 読み解く力の育成	視点３ 自己調整学習の定着
○各教科等の授業において、「具体的なめあての提示→自力解決→集団解決の時間の確保、→めあてに対しての振り返り」等の学習の流れを定着させる。 ○主体的・対話的な学びをめざし、児童がじっくりと考え学び合う場の設定を工夫する。	○基礎的読解力の６分類等の明確な視点をもって、教科書等を読み取る場面を設定する。 ○INPUT→THINK→OUTPUTの学習過程を意識した授業展開を工夫する。特に児童が主体的にOUTPUTする場面を設定する。 ○教科書等の文章・図表等や語句（学習語彙）・用語の確認等、事前に教科書分析を行う。	○年間指導計画、単元配列表を参考に、各学年、学期に１回を目標に自己調整学習を取り入れ、実践を重ねていく。 ○基礎的読解力の６分類の力を土台として、自ら選択・決定・調整ができる授業を実践し、自ら学び続ける児童を育成していく。

■いたばし学び支援プラン２０２５の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のｉカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○「自律と自立」をめざす。特別の教科道徳では「善悪の判断、自律自由と責任」を重点指導項目とし自ら判断し責任ある行動のとれる児童を育成する。 ○ユネスコスクール加盟校として、ESD、SDGｓを踏まえた環境教育を行っていく。総合的な学習の時間で緑のカーテン等を中心に、各学年で設定したテーマを基に問題解決学習を実施する。	○「総合的な学習の時間」を中心に、他教科と関連付けたカリキュラム・マネジメントを進める。 例えば、国語科では自分の考えを伝えたり調べたことを報告する力を育て、算数科ではグラフや表、データを用いた情報の整理・分析・表現を学ぶ。 理科や社会科では、探究的な学習の中で課題解決に必要な知識が身につくよう、教科の関連を意識した授業計画を工夫する。iCSでも、地域連携について話し合い、地域を生かした学習を進める。	○一人一台端末を活用し、情報収集や意見の交流、発表用の資料作成等児童自身が場面や方法を選んで取り組むことができるように、ICT機器の特性を理解して、普段の授業に計画的に取り入れていく。